

領域 12 インフォーマルミーティング議事録

日時：2026年9月16日（水）12:30-13:30

場所：東京大学 駒場キャンパス M1311会場

司会：藤崎弘士

書記：笠原健人

1. 領域運営体制の確認

現在の運営体制について以下の通り確認があった。

領域代表 藤崎弘士（日本医科大）

領域副代表 野口博司（東大）

任期：2026年4月～2027年3月

領域運営委員

	ソフトマター	化学物理	生物物理
2025/10～2026/9	佐久間由香（東北大）	笠原健人（阪大）	大村拓也（北大）
2026/4～2027/3	小西隆士（立命館大）	中村有花（新潟大）	光元亨汰（東大）

（敬称略、以下同様）

2. 次期領域副代表について

次期領域副代表について秋山良（九大）とすることを確認した。

3. 次期領域運営委員について

次期の領域委員について以下の通り確認があった。

ソフトマター	化学物理	生物物理
栗栖実（九大）	白石薫平（阪大）	安田健人（日大）

任期はいずれも2026年10月～2027年9月。

4. 次々期領域運営委員について

次々期領域運営委員について以下の案が承認された。

ソフトマター	化学物理	生物物理
柳島大輝（都立大）	松尾美香（九大）	荻田裕也（東大）

任期はいずれも2027年4月～2028年3月。

5. 副代表・代議員推薦について

下記の進捗段階にあることが報告された。

次期副代表	秋山良（九大）
次々期副代表候補	鳥谷部 祥一（東北大）／内諾済み
代議員推薦案（5名）	藤崎 弘士・野口 博司・秋山 良 佐久間 由香（内諾済み） 堀川 裕加（内諾済み）

代議員任期：2027年3月31日～2029年3月31日

領域推薦書の提出期限：10月31日

6. 第81回年次大会：領域12の主な企画

領域12での企画に関する報告があった。

チュートリアル 講演	9/14 13:30～14:15 M1312	機械学習ポテン シャルの現状と 課題	講演者：志賀基之 （JAEA）	
シンポジウム	9/16 13:30～16:50 M1313	電場応答系のゆ らぎとダイナミク ス	講演者：小貫明 / 山 室修 / 菊池裕嗣 大谷実 / 木村勇太 / 佐藤龍平	世話人：高江恭 平（代表） / 古 川亮 池田昌司 / 安藤 康伸

7. AAPPS-JPS Award受賞報告

下記の受賞報告があった。

谷 茉莉（京大）

日常に根ざしたソフトマター現象に潜む複合的な物理機構の解明

Elucidation of Complex Physical Mechanisms Hidden in Everyday Soft Matter Phenomena

8. 合同セッションの主担当

ガラス合同	主担当：領域12
アクティブマター合同	主担当：領域11
生物合同	主担当：領域12

9. 若手奨励賞

若手奨励賞の審査について、審査委員長より、応募者7名、受賞上限3名であること、書面審査とオンライン合議でとり行った旨の報告があった。

10. 学生優秀発表賞

第81回年次大会では、学生賞セッションで審査を実施し、9/28までに審査員・受賞候補者を学会へ報告する必要があることの説明があった。

審査としては、(1) 講演概要の内容(0~3)、(2) 発表・討論のわかりやすさ(0~3)、(3) 発表内容の新規性(0~3)の3項目で採点をしているが、評価項目の重み付けについて意見交換があり、特に『発表・討論のわかりやすさ』を重視すべきとの意見があった。今大会については所定の3項目による審査結果を踏まえ、受賞候補者の取りまとめを領域代表が行うこととした。

11. 領域の広報・連絡体制

領域12メーリングリスト、Xアカウントが運用されていることの案内があった。

12. 領域委員会報告（6月・8月）

領域再編を進める方針であるとの説明があった。

対象は主に物性領域（領域1~12）であり、2028年9月の年次大会を目標に再編予定。

第1段階：プログラムユニット(PU)を作る（プログラム編成のコミュニティ単位として整理）

第2段階：複数のPUを束ねて新領域を作る（同程度の規模になるように束ねる）

- ・ PU自体の規模は大小を問わず、現在より小さい単位が望ましい
- ・ 各領域は9月のIMでPU案を検討する

PUはプログラム編成を行うための「コミュニティの単位」であり、下記の方針であることの説明があった。

- ・ 領域再編そのものではなく、まずPUを整理する
- ・ PUの大小は問わない
- ・ 再編後の領域は、複数PUを束ねて規模を揃える
- ・ 最終的なキーワードは、PUの内容を確認した後に新たに組み直す
- ・ 具体的な領域編成案の決め方はWGで今後検討

WG案のうち、領域12に関連するPUは下記。

PU	現領域	主要キーワード	領域12との関係
ガラス	6, 11, 12	ガラス・アモルファス	合同セッションあり
アクティブマター	11, 12	アクティブマター	合同セッションあり
ソフトマター物理	12	高分子・コロイド・液晶・レオロジー	現ソフトマター
化学物理	12	電子状態・化学反応・光応答・液体・溶媒和	現化学物理
生物物理	11, 12	生体分子・細胞・生態系・ネットワーク	現生物物理

「領域12をどこと統合するか」ではなく、「領域12にどのPUが必要か」をまず議論する必要がある、下記のPU案が代表より示された。

ソフトマター系	化学物理系	生物物理系
ソフトマター・高分子	液体・溶液・溶媒和	分子生物物理
アクティブマター・ 非平衡ソフトマター	分子・化学物理	細胞・集団生物物理
ガラス・アモルファス		

アクティブマター・非平衡ソフトマター、ガラス・アモルファスについては、領域12が検討するPUとするように領域11代表より提案があったことの説明があった。

13. 審議項目：領域12のPU案

9/30がPU案提出締め切りであり、それまでに意見があれば領域代表（藤崎）まで送ってほしい。

コメント・質問

- WGによるPU案で良いが、キーワードを増やした方が良いと思う。例えば、生物物理での「ネットワーク」ではなく、遺伝子ネットワークから代謝ネットワークなど。また、ソフトマターについては、界面活性剤を加えるなど。
- PUのサイズ感は揃えておいた方が良いのか。例えば、ガラスは発表者数が他と比べて少なかったが、ガラスが化学物理と統合されると、大体のサイズ感が揃うような感じになり、そういう考え方もあるかもしれない。
→ 分野ごとに分けるのが理想だとは思いますが、最近は分野横断型のものも多く難しいので、サイズ感を揃えたいというものはある。ただし、最終的にはWGで判断となるので、現時点で領域側で細かく考える必要はないように思う。
- 領域11の方では、各PUに運営委員が1、2名くらいつくという規模感を想定しているという話があった。
- 合同セッションの負担が大きいので、ネットワークなどキーワードから外せると良いかと思う。
→ 今回のPUを作る話は、合同セッションの負担を減らすという目的もある。
- アクティブマターやガラスや生物物理を領域12に入れるというのは、領域11と12で分かれてしまうということなのか。
→ 現時点ではまだ不明であり、流動的な状況である。領域11の案ではこれらのキーワードがPUから外れてしまったので、領域11としては領域12の方でこれらの案を出してほしいとのこと。その後どう再配置するかはWGの方で決めるとのこと。

- 今は3つで分かれているが、もしこれを5つにしたらそれぞれに委員を出すことになるのか。ガラスは化学物理のようなイメージもある。そのあたり他の領域にも意見を聞いた方が良いのではないのか。
 - ガラスの発表は他の分野より明らかに少ないので、確かに規模に偏りがある。
- ガラス1つで委員を1人出すのは難しいので、他の分野と統合してもよいかもしれない。
- 過去はガラス関連のセッションは、化学物理の人がプログラム編成することになっていたので、ガラスと化学物理を統合することをすすめるわけではないが、過去の運用との整合性がある。
 - 細かく分けた方が良いメリットはあるのか。例えば、出せる賞の数が増えるなど。
- 発表数で決めているので、そういうことはない。
- 20年前に太田先生が特定領域で非平衡ソフトマターというのをやっていたが、アクティブマターはそういったところから出てきたと思うので、領域12にアクティブマターが入っているのはおかしくないと思う。
 - 先の話になるが、科研費の細目と対応するようにするという話がある。なので、縮小しないほうが出しやすいし、逆に違うのが混じっていると出しにくいというのがあるのではないか。
- すぐに科研費とは連動しないと思う。
- プログラムを組む上で、ガラスとアクティブマターは同時時間帯を避ける必要があるようになっていくと思う。なので、ガラスとアクティブマターで分けるのはプログラム編成の際にやりにくくなるようにも思う。
- 最終的にはWGの判断になるので、そういったプログラム編成の経験のある方がWGにぜひ入ってほしい。
- アクティブマターの割合が大きくなっていて、そこにガラスを統合するというのは良いのかどうか難しい。
 - PU案提出の際に、コメントをつけることはできないのか。
- 領域代表が提出時に本日の議論内容を伝えるようにする。

14. 決定事項・今後の対応

期限	対応事項
9月24日	若手奨励賞：受賞候補者一覧（Excel）
9月28日	学生優秀発表賞：審査員・受賞候補者報告
9月30日	PU案：修正箇所を明示／変更なしでも回答
10月2日	次々期運営委員の推薦・春季募集要項／キーワード

期限	対応事項
	招待・企画・チュートリアル講演報告書
10月19日	2027年度 領域代表・副代表の届出
10月31日	代議員の領域推薦書（PDF）

15. その他

- 学生賞などについて英語でのアナウンスはあったのか。留学生なども応募できるということを知らせる必要があると思う。
→ 次回以降に英語でもアナウンスする予定である。
- 国際化に向けて、発表日本語、スライド英語、などをすすめていった方が良いのではないか。例えば、生物物理学会の方では、全て英語となったが、学生も含めて皆英語で発表するようになっている。
→ スライドを英語にするのは大変ではないので、次回以降の際に検討する。
- 学生優秀発表賞の申し込みにGoogle Formへの入力を求めているが、入力しない学生が割合いるので、指導教員は徹底するようにしてほしい。
→ 前回の時からGoogle Formを利用するようにして、まだ試行期間中であるため、未入力の学生には連絡をしていたが、すでに十分周知されたと思うので、次回以降はGoogle Form未入力者を審査対象外とする方向で運用を検討する。